



2023年度 ほげんだより 第5号

久宝まぶねこども園 992-2033

8月30日

猛暑が続く中、たくさん汗をかくと体力を消耗します。しっかり水分補給をして、休息・睡眠をしっかりととり、疲れを残さないようにしましょう。

季節の変わり目は体調を崩したり、夏の疲れが出やすい時期です。早寝、早起き、バランスの良い食事を心がけ、元気に過ごしましょう。

おねがい

- ・幼児部クラスのお子様は、普段マスクを使用していない場合でも、カバンのなかにマスクの予備を入れておいてください。怪我をして病院を受診する際や咳がよく出る時に使用することがありますので、ご用意をお願いします。
- ・風邪症状等で咳がひどい場合は、登園時からマスク着用をお願いします。
- ・内服薬を持参する際は必ず、1回分だけを持って来てください。

ボタン電池の誤飲に注意

- ・おもちゃや体温計、キッチンタイマーなどによく使用されているボタン電池。ボタン電池を誤って飲み込んでしまった場合、命を落とすこともあります。

人の体内に入った場合は1時間以内に食道や胃などの粘膜を傷つけ、時間がたつほど傷も大きくなってしまいます。万が一飲み込んでしまった場合や、飲み込んだ可能性がある場合は吐かせずに速やかに病院を受診しましょう。

予防策として

- ①電池交換方法を子どもに見せない（子どもはすぐに真似をします）
- ②簡単にフタが開くものにはフタにテープを巻く
- ③交換後、古い電池はすぐに子どもの手の届かないところに片づける



スキンケアについて

子どもの肌はみずみずしく見えますが、大人よりも表面を覆っている表皮が薄いので、乾燥しやすく、すぐに荒れたり、かぶれやすいです。こまめに丁寧に日常的なケアをしてあげてください。

お風呂あがりや朝の登園前などに1日2回の保湿剤の使用をおすすめします。保湿剤を塗った後、ティッシュが皮膚につく、皮膚がテカる程度が使用量の目安となります。

防災週間（8月30日～9月5日）

9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です。

こども園では毎月、火災・水害・地震などを想定して避難訓練を行っています。ご家庭でもこの機会に、災害に備えて避難場所や連絡方法の確認、防災グッズの準備をしておきましょう。

備えて安心

非常持ち出し袋をチェック!

災害に備えて非常持ち出し袋を買って、そのままになっていませんか?

市販のものは大人用のものなので、お子さんの年齢に合わせて必要なものを補充しておきましょう。

まずは、1泊2日の旅行の用意をするつもりで考えると、そろえやすいかもしれません。

チェック1

子ども用の持ち出し用品を準備しておこう

乳幼児用の非常持ち出し袋に入れておきたいもの

- おむつ** おむつを卒業していても、慣れない環境でおむつが必要になる場合も。
 - おしりふき**
液体ミルクやレトルトの離乳食・哺乳瓶
数日分あればベスト。
 - 着替え** 少し大きめのものを入れておき、定期的に入れ替えるとムダになりません。
 - おもちゃ** 緊張を和らげてくれます。
 - ミネラルウォーター** 500mlを2～3本。
- おむつやおしりふき、授乳用のケープなどをまとめた「外出用のバッグ」を常時置いておけば、非常時にそのまま使える持ち出し袋になります。



チェック2

持ってみよう

災害時にはベビーカーは使えない場合がほとんど。避難するときは赤ちゃんを抱っこひもで、小さな子どもは手をつないで連れていくことになるので、その状態で非常持ち出し袋を持ってみましょう。安心のためにあれこれ入れても、重くて持てなくては意味がありません。無理なく移動できるよう調整しましょう。

チェック3

実際に使ってみよう

非常時に備えて液体ミルクやレトルトの離乳食などを準備していても、食べたことがないと、いざというときに子どもが食べてくれないことがあります。普段から食べさせ、味に慣れておくことで安心です。備蓄品にも、賞味期限があります。大人用の備蓄品もチェックして、期限に近づいたものは食べてみましょう。好みの味や使いやすいものが見つければベストです。